



#2 ■ シェイクダウン

文・竹内俊介 写真・小淵喜幸

ランボルギーニ「ムルシエラゴ」。通称「ランボ」。いい響きだ。十分の一と言えども「俺のランボ」であることは間違いない。そんなことを考えながら組み立てを開始した。とは言っても、今回購入したのは完成品セット。シャシーは京商スタッフにより万人向けにセットアップされている。これにタイヤをつけ、ストローのようなアンテナパイプを差込み、ボディを載せれば「俺のランボ」は完成だ。少々物足りなさも感じるが、実車以上に調整幅のあるシャシーは確かに初心者には手強い。しかし完成した「ランボ」を上げ上げと眺めてみれば、そのリアルなたたずまいに思わず頬が緩む。早く走らせたい、そんな思いだ。

そしてシェイクダウンの日。朝早く「俺のランボ」をトランスポーターに積み込み、厚木に向かう。まずは走行前に、冷却やメンテナンス性向上のための穴をボディに開ける。サイドウィンドーをカッターで切り取りエンジンの冷却性能を高める。次にメンテナンスホールを三箇所開ける。最初はフロントウィンドー付近に給油用の穴を。続いて、リアウィンドー付近にエンジ

ン始動時のリコイルスターターを引くための穴、さらにルーフ上にプラグヒーターを入れる穴を開けて完了。燃料を入れ、送信機、受信機の順で電源を入れ、システムの動作チェック。走行準備完了だ。

今回の目的はナラシ運転、そして初期不具合と今後の課題抽出である。そのナラシは実車同様にエンジン回転を上げずに行うのだが、ラジコンの場合、混合気を濃い状態にして回転を抑える。具体的には、ニードルという混合気の燃料の量を決めるネジを調整して行う。最初は、実車でいう三千回転くらいからスタートし徐々に回転を上げていく。これを満タンの燃料タンクにして三〜四タンクくらいの走行で全開ポイントまで持つていくのだ。

さて、緊張のエンジンスタート。スターターを三、四回引いたところでエンジンがかかった。スロットルをあおってみると、何とレーシーな吹き上がりか。いやが応にも興奮してくるが、気持ちを抑えてコースイン。しかし、あまりにシャープな挙動に蛇行してしまう。それでも何とか集中力を保って一タンク目は終了。その後、徐々にエンジン

本来の性能が出てくるにつれ、スピードも上がり、何度もクラッシュやコースアウトを繰り返す。そしてナラシは終了。京商の岩崎さんがエンジンをベストな状態にしてくれ、再びコースイン。速い。目が追いつかない。テールがスライドする。クラッシュの連続。そして自信喪失。岩崎さんのアドバイスは、「すべての操作がオンかオフです。ね。もつと中間を使ってジワッと操作してください」とのこと。まさに実車の場合と同じような指摘を受けてしまった。

さて、課題は明確になった。マシンにはまったく問題がない。むしろドライバーのスキルと精神力の向上が大きな問題だ。まずは微妙な操作ができるようなドラテクを身につけること。そして集中力の持続だ。何しろ五周目くらいで集中力が途切れクラッシュする。さらにコース上に他のクルマがいると集中力が乱れる。これではレースを聞えない。対策として、徹底的に走りこむことにした。

以上、本日の出費、乾電池、燃料、サーキット使用料で、八、五三四円。早くも「俺のランボ」は傷だらけだ。



ボディを加工し、エンジンの冷却のための穴やメンテナンス用の穴を開ける。サイドウィンドーは通常のカッターで開ける。



緊張のエンジンスタート。プラグヒーターでプラグを加熱、スターターを数回引けばエンジンはかかる。コツは手のスナップだ。



京商サーキット。平日¥500、土日祝日は¥1,500。ただイベント等もあるので事前に確認した方がよい。
www.kyosho.co.jp/web/race/circuit_sche/



【FW-05T プラス】レディセット
【ランボルギーニ ムルシエラゴ】

■全長:372mm×全幅:200mm×全高:105mm ■グランドクリアランス:6mm ■ホイールベース:258mm ■トレッド(F/R共):176mm ■タイヤ(F/R共):φ64×24mm ■ギヤレシオ:7.47/5.44:1 ■全備重量:約1,800g ■エンジン:リコイルスターター付GXR15 ■価格:シャシーセット¥36,750+ボディセット¥7,350
お問い合わせ:京商(株)ユーザー相談室
TEL:046(229)4115 www.kyosho.com